

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

小学6年生と中学3年生を対象としたみだしの調査が、4月18日に実施されました。現在、各学校で調査結果の分析・検証を進めており、今後、自校の課題を踏まえた指導の改善に一層取り組んでいくところです。

つきましては、多治見市全体の傾向をお知らせしますので、お子さんの学習習慣や生活習慣を見つめ直す際の参考として活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果より

調査を行った教科「国語、算数」の平均正答率については、国・県をやや下回っています。また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げるができます。

【国語】同音意義に気を付けて、漢字を文の中で正しく使うことができるようにすること。

複数の情報を関係付けて根拠とし、自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることができるようにすること。

【算数】知りたい数量の求め方や計算の仕方などの理由を式、数、言葉を用いて説明できるようにすること。

ご家庭では、学校から配付される個人票を参考に、「できた問題とできなかった問題」また「なぜ間違えたか」などを具体的に話し合ってみてください。

また、明らかになった課題に対して今後努力することや気を付けていくことを、お子さん自身が決めるようなふり返りとなるようお声がけをお願いします。

2 質問紙調査の結果より

質問紙調査において主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

- ・一日の家庭における家庭学習時間(月～金)1時間以上が約60%で県とほぼ同等で、全国を上回っています。
- ・平日、30分以上読書する割合は、約40%で、国や県よりも上回っています。どの教科も、読書の時間が長いほど正答率が高い傾向にあります。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる割合は、国や県と同等です。自分で考え、自分から取り組んでいる児童ほど正答率が高い傾向にあります。
- ・学級やグループでの活動で、自分の考えを深めたり広げたりしている割合は、国や県よりも下回っています。

<生活習慣>

- ・自分にはよいところがあると思う割合は、国・県を下回っています。
- ・毎日、朝食を食べている割合は約90%で、国・県を上回っていますが、毎日同じくらいの時刻に寝ている割合は約40%で、県よりもやや下回っています。どちらも習慣になっている子ほど正答率が高い傾向にあります。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、将来の自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後ご理解とご協力をお願いいたします。